

金浦の自然と共生シリーズ ①

金浦の歴史・文化の足跡や貴重な石造物や風光明媚な高原について、またエドヒガンザクラや水生生物についても「金浦の歩み」の冊子に記載しています。今回新たに金浦やその周辺の自然についても取り上げていきたいと思えます。「自然」とは、人為によってではなく自ずから存在しているもので、山・河・海やそこに生きる万物を指しています。そして、そこで生きている人間の営みは自然との共生に他なりません。難しく言うところなありますが、要するに自然に生かされている田舎暮らしの日常が垣間見れるような記事が書ければいいなと思う次第です。今回は金浦やその周辺の野山に咲く花木を紹介します。



【ホタルブクロ】山野に広く分布していたが、最近は少ない。色は白、紫、ピンクがある。釣り鐘型の花を摘んで手の平で叩くと「ポン」と鳴った。



【ふなめ】子供の頃、口元紫にして食べていた。毛虫もたまに。養蚕が盛んな頃は立木の桑畑が一面に広がっていた。一般的には、「桑の実」「マルベリー」と呼ぶ。



【ササユリ】昔、田植えを6月にしていた頃によく見かけたが、今は希少種。百合採りに山に分け入り花瓶に挿していた。臭いが強く、球根は食せる。別名「ヤマユリ」。



【葵：アオイ】上まで咲いたら梅雨の明ける頃となるので、別名「梅雨葵」。